

九州共立大学
アダプテッド・スポーツ研究部
の皆さんが
町と大学の地域連携事業の一環として
参加してくれました。



これまでの社会は、障がいのない人に合わせてつくられているものが多く、障がいのある人にとってさまざまなバリア(障壁)が生まれてきました。公共交通や建物のバリアフリー化は広がりを見せているものの、制度や意識のバリアに関しては、いまだに問題が残っています。さらなるバリアフリー社会を広げていくためには、障がいのある人がどのようなところにバリアを感じるのか知り、一人一人が配慮や思いやりの心を持って行動することが大切です。

障がいのある人が直面する4つのバリアの例

2 制度的バリア

- ・障がいがある理由で受験を制限される
- ・理解が不十分で補助犬の入店を拒否される

1 物理的バリア

- ・路上の放置自転車
- ・ホームと電車の隙間
- ・座ったままでは届かない位置にあるボタン

4 意識的バリア

- ・無理解により奇異な目で見られる
- ・かわいそうだと決めつけられる

3 情報的バリア

- ・音声のみのアナウンス
- ・手話通訳のない講演会
- ・視覚情報に頼ったパネル式の操作盤

9 月28日に遠賀センターで、障がいの

また、バリアフリー社会の実現のためには、地域の人が障がいのある人と交流することで理解を深める機会も必要です。

障

がいのある人にとって、外出したり、趣味を楽しんだりする際に立ちはだかるバリア。社会活動への参加がバリアで制限されると、自立促進や生きがいを得る機会が減り、健康増進やリハビリテーションも進みません。

バリアをなくそう！

みんなでスポーツ編

問い合わせ 障がい者支援係
093・293・1296

特集



アダプテッド・スポーツとは
障がいの有無、年齢、性別、体力などに関わらず
ルールや用具を工夫(アダプト)することで
誰でも楽しく安全にできるスポーツのことです。

ある人が気軽にスポーツを楽しむことができないように配慮して開催された、パラスポーツ遠賀大会(遠賀郡身体障がい者福祉連合会主催)を取材してきました。大会には、在宅で生活する身体障がいのある人を中心に支援者や家族、ボランティアスタッフなど約100人が参加。競技種目は力の差による影響が少ない「ボッチャ」と「フライングディスク」で、ボランティースタッフとして、九州共立大学アダプテッド・スポーツ研究部の学生やボランティア連絡協議会、遠賀信用金庫の職員などが参加し、障がいのある人が競技しやすいように補助しながら、声かけや応援、時には一緒に競技へ参加して交流を深めていました。今回のように、障がいの有無に関わらず参加できる活動が増えていくと、誰もが暮らしやすいバリアフリー社会の広がりにつながっていきます。

大会の様子

ふれあいレクリエーション と 準備体操

しっかり伸ばして～

合図をよ～く
聞いて

学生ボランティアスタッフによる、
ゲーム方式で楽しみながら手先を動かすふれあい
レクリエーションと座ったままでもできる
準備体操で、体と心をほぐします。

ふれあいレクリエーション

準備体操

フライングディスク

的の輪にディスクを
投げ入れると得点GET！
コツをつかみ、連続で
入れる人もいましたよ。

真っ直ぐ
投げるのが大事

真ん中を目指して！

ボッチャ

白いボールに近づくことを目指して
投球！みんなでどのボールが近いか
確認して勝敗を決めます。

勝利のハイタッチ！

どのボールが近い？

参加した人にインタビュー

スポーツを通して
みんなが楽しめるって
素敵ですね。
もっとみんなに知って
ほしいです。

外出する
いい機会になりました。
年齢や障がいなどに
関係なく
できるスポーツだった
ので良かったです。

大会と聞いて
勝敗を重視するのかなと
思っていたが
敵味方関係なくみんなで
応援し、良いプレーが出る
と盛り上がりました。

初めて
ボッチャをしました。
もっとこんなイベントが
あれば障がいがあっても
気兼ねなく
参加できますね。

ボランティア
九州共立大学
花田 道子先生

選手
麻生 榮子さん

学生
ボランティア
九州共立大学
渡部 凛さん

選手
佐々木 慶一郎さん